

日本国特許
JAPAN PATENT OFFICE

#3 4-13-02
*Priority
papers*

J1002 U.S. PTO

10/072496



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2001年 2月 7日

出願番号

Application Number:

特願2001-030840

出願人

Applicant(s):

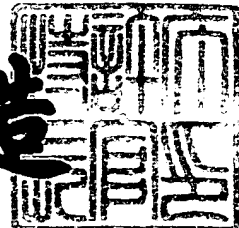
株式会社半導体エネルギー研究所

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年12月21日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 P005497

【提出日】 平成13年 2月 7日

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県厚木市長谷 3 9 8 番地 株式会社半導体エネルギー研究所内

 【氏名】 山崎 舜平

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県厚木市長谷 3 9 8 番地 株式会社半導体エネルギー研究所内

 【氏名】 渡辺 康子

【特許出願人】

 【識別番号】 000153878

 【氏名又は名称】 株式会社半導体エネルギー研究所

 【代表者】 山崎 舜平

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 002543

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一筐体と第二筐体が蝶番により連結されている電子装置であって、
前記蝶番を介して前記第一筐体と前記第二筐体を折り畳んだ状態のみにおける前記第一筐体の第一の中心線と前記第二筐体の第二の中心線は平行であることを特徴とする電子装置。

【請求項 2】

第一筐体と第二筐体が蝶番により連結されている電子装置であって、
前記蝶番を介して前記第一筐体と前記第二筐体を折り畳んだ状態のみにおける前記第一筐体の第一の中心線と前記第二筐体の第二の中心線は平行であり、かつ、
前記第一筐体の第一の面と前記第二筐体の第二の面は向かい合っていることを特徴とする電子装置。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 において、前記第一筐体と前記第二筐体には、一方には受話部が設けられており、もう一方には送話部が設けられていることを特徴とする電子装置。

【請求項 4】

請求項 1 または請求項 2 において、前記第一筐体と前記第二筐体には、一方には表示部が設けられており、もう一方には操作キーが設けられていることを特徴とする電子装置。

【請求項 5】

請求項 1 または請求項 2 において、前記第一筐体と前記第二筐体は、縦方向または横方向に並べて連結されていることを特徴とする電子装置。

【請求項 6】

請求項 4 において、前記表示部に表示される記号の向きは前記電子装置の縦横の向きに応じて切り替わることを特徴とする電子装置。

【請求項 7】

請求項 4 において、前記操作キーは、透光性のボタンと、該ボタンの下部に設けられた表示部を有することを特徴とする電子装置。

【請求項 8】

請求項 4 乃至請求項 7 のいずれか一項において、前記表示部には、液晶表示装置または発光装置が設けられていることを特徴とする電子装置。

【請求項 9】

請求項 4 乃至請求項 7 のいずれか一項において、前記表示部には、文字、数字または絵文字を含む記号が表示されることを特徴とする電子装置。

【請求項 10】

請求項 4 乃至請求項 7 のいずれか一項において、前記表示部には、画像が表示されることを特徴とする電子装置。

【請求項 11】

請求項 8 において、前記液晶表示装置または前記発光装置には、光電変換素子が設けられていることを特徴とする電子装置。

【請求項 12】

請求項 1 乃至請求項 11 のいずれか一項に記載の電子装置を用いることを特徴とする携帯端末。

【請求項 13】

請求項 1 乃至請求項 11 のいずれか一項に記載の電子装置を用いることを特徴とする携帯電話。

【請求項 14】

請求項 1 乃至請求項 11 のいずれか一項に記載の電子装置を用いることを特徴とする PDA。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インターネットに接続して情報の送受信を行う情報端末、携帯電話、PHS (Personal Handy Phone system)、PDA (Personal Digital Assistant) などの電子装置に関する。なお、本明細書において電子装置とは、使用者

が携帯することが可能であり、屋内および屋外において、無線電話、有線電話またはインターネットを介してデータおよび情報の送受信が可能である電子装置を指す。

【0002】

【従来の技術】

携帯電話に代表される電子装置は、無線通信回線やインターネットを利用した情報通信網の確立と、通話料金および本体価格の低下、その利便性があいまって急速に普及している。携帯電話は、筐体に通信回路、表示部、操作部、受話部、送話部、アンテナなどが一体に設けられている。

【0003】

携帯電話に代表される電子装置は、外観や機能だけでなく、重量や連続使用可能時間の長さなどが使用者の選択基準となっている。そのために、電子装置の重量を軽くし、かつ一回の充電で使用可能な時間を長くするために様々な工夫が凝らされている。その結果、不要と思われる機能は可能な限り削除されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

近年では、通信技術の発達により、電子装置で電子メールの送受信が可能となった。操作部に設けられている操作キーでメールを作成するには煩雑な操作が必要であった。

【0005】

また、電子装置は無線電波を用いて通信を行うため、使用者の環境によっては音声聞き取りにくい場合があった。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本明細書で開示する発明の構成は、
第一筐体と第二筐体が蝶番により連結されている電子装置であって、前記蝶番を介して前記第一筐体と前記第二筐体を折り畳んだ状態のみにおける前記第一筐体の第一の中心線と前記第二筐体の第二の中心線は平行であることを特徴とする電子装置である。

【 0 0 0 7 】

以上のような構成とすることにより、操作キーの操作をより簡単にしている。
また、携帯電話として使用する際には送話部を口の近くに持っていきやすいため、
音声を相手先によりクリアにして伝えることが可能となる。

【 0 0 0 8 】

【発明の実施の形態】

本発明の実施形態について、以下に説明する。

【 0 0 0 9 】

図 1 (A) ~ (F) に、本発明の電子装置の一例である携帯電話の図を示す。
図 1 (A) は、本発明の第一筐体と第二筐体を蝶番により連結した電子装置を内側から開いた図を示している。図 1 (B) は、図 1 (A) の電子装置を側面から見た図である。図 1 (C) は、本発明の電子装置を開いて外側から見た図を示している。

【 0 0 1 0 】

図 1 に示す 1 0 0 は蝶番である。また、1 0 4 は受話部、1 0 5 は操作キー、1 0 6 はボタンであり、1 0 1 は表示部、1 0 3 は送話部である。なお、本明細書では、複数のボタン 1 0 6 の総称を操作キー 1 0 5 とよぶ。本実施の形態では、1 0 4 受話部、1 0 5 操作キー、1 0 6 ボタンを有する筐体を第一筐体とし、1 0 1 表示部、1 0 3 送話部を有する筐体を第二筐体とする。なお、表示部 1 0 1 には、液晶表示装置または発光装置が設けられている。また、本発明の電子装置にはアンテナ等の電磁波を受信する機能を有するものを取り付けてもよい。さらに、ストラップ、シールドパット等の付属品（図示せず）が取り付けられていてもよい。また、受話部 1 0 4 と送話部 1 0 3 は、第一筐体と第二筐体にそれぞれ組み込まれており、第一筐体と第二筐体を蝶番 1 0 0 により、折り畳み可能にして小型化を図っている。また、折り畳み可能にすることができるために、受話部 1 0 4 と送話部 1 0 3 の人間工学的な距離を十分に確保できる。図 1 (A) ~ (C) に示されるように、第一筐体と第二筐体を蝶番を介して開いた状態においては、第一筐体の中心線 A と第二筐体の中心線 B は、互いに斜めになっており、平行ではない。

【 0 0 1 1 】

図 1 (D) ~ (F) は、図 1 (A) ~ (C) に示す電子装置の第一筐体と第二筐体を蝶番を介して折り畳んだ状態を示している。図 1 (D) は、第一筐体と第二筐体を折り畳んで、第一筐体を上面にして見た図を示しており、第一筐体の中心線 A と第二筐体の中心線 B が一致し、平行になっていることが分かる。図 1 (E) は、図 1 (D) の電子装置を側面から見た図であり、中心線 A と中心線 B は一致し、平行である。図 1 (F) は、図 1 (D) の電子装置を第二筐体を上面にして見た図を表しており、図 1 (D) と同様に、第一筐体の中心線 A と第二筐体の中心線 B が一致しており、平行になっている。

【 0 0 1 2 】

本発明で、筐体の中心線とは、図 1 に示すように第一筐体と第二筐体を蝶番 1 0 0 を介して折り畳んだ状態において、第一筐体の中心線 A と第二筐体の中心線 B が平行になる線を示す。かつ、第一筐体と第二筐体を蝶番 1 0 0 を介して開いている状態において、互いに斜めになっている線を示す。なお、図 1 において、本発明の電子装置の筐体は、直線に囲まれた形状を有しているが、本発明はこれに限定されず、曲線により囲まれた形状をしていてもよい。また、図 1 に示す電子装置は第一筐体と第二筐体と同じ形状をしているが、本発明はこれに限定されず、第一筐体と第二筐体が異なる形状をしていてもよい。

【 0 0 1 3 】

図 2 は、本発明の電子装置が蝶番 1 0 0 によって連結される前と、蝶番 1 0 0 によって連結された後を示している。図 2 (A) と (B) は第一筐体と第二筐体が蝶番 1 0 0 により連結される前を示している。図 2 (B) は、第一筐体と第二筐体を内側から開いて見た図であり、図 2 (A) は図 2 (B) の側面図である。第一筐体及び第二筐体には、内側に穴が開いている筒 1 0 0 a が複数取り付けられている。蝶番 1 0 0 は、筒 1 0 0 a の穴に棒 1 0 0 b を通して連結する仕組みになっている。なお、本明細書中では、筒 1 0 0 a と棒 1 0 0 b を合わせて蝶番 1 0 0 とする。なお、蝶番 1 0 0 は図 2 に示す形状のものに限らず、公知に用いられている蝶番ならばどんなものでも本発明に適用することが可能である。

【 0 0 1 4 】

図 2 (C) と (D) は第一筐体と第二筐体を蝶番 1 0 0 により連結した図を示している。図 2 (D) は、第一筐体と第二筐体を蝶番 1 0 0 により連結し、内側から開いた図を示している。図 2 (C) は、図 2 (D) の側面図である。

【 0 0 1 5 】

次に、本発明の電子装置のプリント基板およびプリント基板を接続している FPC、並びに蝶番 1 0 0 の配置について図 3 を用いて説明する。図 3 (A) は本発明の電子装置を示している。図 3 (B) は、第一筐体内のプリント基板 1 1 0 a と第二筐体内のプリント基板 1 1 0 b を示したものである。プリント基板 1 1 0 a とプリント基板 1 1 0 b は、FPC 1 1 1 により接続されている。プリント基板 1 1 0 a には、ボタン 1 0 6 により入力された情報を第二筐体の表示部 1 0 1 に表示させるための配線が設けられている。第一筐体と第二筐体は、FPC 1 1 1 で接続されており、ボタン 1 0 6 により入力された情報は、FPC 1 1 1 を介して第二筐体の表示部 1 0 1 に表示される仕組みになっている。なお、プリント基板 1 1 0 a と 1 1 0 b には図 2 (B) で示す以外にもメモリ、また受話部 1 0 4 及び送話部 1 0 3 を制御するためのコントローラーなどが設けられているが、図 3 (B) では説明を簡単にするために省略する。

【 0 0 1 6 】

図 3 (C) は、図 3 (A) の電子装置を A - A ' で切断した断面図である。第一筐体内のプリント基板 1 1 0 a と第二筐体内のプリント基板 1 1 0 b は、蝶番 1 0 0 を介して連結されており、プリント基板 1 1 0 a とプリント基板 1 1 0 b は FPC 1 1 1 により接続されている。FPC 1 1 1 は蝶番 1 0 0 内に収められているため、第一筐体と第二筐体は、蝶番 1 0 0 を介して折り畳むことができる。

【 0 0 1 7 】

図 3 (D) は、第一筐体と第二筐体を蝶番 1 0 0 を介して折り畳んだ状態を示している。図 3 (E) は、図 3 (C) に示す本発明の電子装置の点線で囲まれた部分を拡大したものである。図 3 (E) に示すように、プリント基板 1 1 0 a とプリント基板 1 1 0 b を接続するために設けられた FPC 1 1 1 は蝶番 1 0 0 内に収められている。

【 0 0 1 8 】

図 4 は、本発明の電子装置の使用形態について説明する図である。図 4 (A) は、右手で操作キー 1 0 5 を操作している図であり、左ききの人に最適である。また、図 4 (B) は、左手で操作キー 1 0 5 を操作している図であり、右ききの人に最適である。なお、図 4 では、片手でのみ操作しているが、両手を使って操作してもよい。

【 0 0 1 9 】

図 5 は、表示部 1 0 1 を有する筐体を示したものである。1 0 3 は送話部である。図 5 (A) は、表示部 1 0 1 に画像が表示されている様子を示した図である。図 5 (B) は、表示部 1 0 1 に記号が表示されている様子を示した図であり、文字、アルファベット、数字、絵文字が示されている。

【 0 0 2 0 】

【実施例】

(実施例 1)

実施の形態では、表示部にのみ表示装置を用いた場合を説明したが、本実施例では操作キー 1 0 5 の下部に表示装置を設けた電子装置を説明する。図 6 は、操作キー 1 0 5 の構成を示す断面図であり、操作キー 1 0 5 の下部に発光装置を用いた場合を示す。

【 0 0 2 1 】

図 6 (A) において、筐体 2 0 1 の内側には、ガラスエポキシ樹脂またはセラミックで形成されたプリント基板 2 0 2 があり、ベースバンド部として CPU (マイクロプロセッサ) や DSP (デジタル信号処理プロセッサ)、各種メモリ (フラッシュメモリや SRAM) などの信号処理回路や、ミキサや周波数シンセサイザなどを搭載した送受信回路部が形成されている。

【 0 0 2 2 】

プリント基板 2 0 2 において、上述した各種回路が形成されている面とは反対側の面に発光装置 2 0 4 が設けられている。発光装置 2 0 4 は基板 2 1 2 と、封止材 2 2 1 と、導光板 2 1 4 と、カバー材 2 1 3 とを有している。発光装置 2 0 4 は、基板 2 1 2 との間に封止されている。また導光板 2 1 4 の端部にはバック

ライト（図示せず）が設けられている。

【0023】

筐体201の外側から認識可能なボタン203は透光性であり、その下部には発光装置204設けられている。このような構成により、発光装置204で表示される記号は、透光性のボタン203を介して認識することができる。

【0024】

発光装置204は基板212上に形成された配線206と接続している。プリント基板202の回路と、基板212の回路との接続形式は特に限定されないが、例えばFPC（フレキシブルプリント配線板：Flexible Printed Circuit）210を用いて、配線206とプリント基板202の回路とを接続しても良い。

【0025】

透光性のボタン203と基板212との間には、電極209a、209bと、ダイヤフラム208と、ダイヤフラム208が固定されている可撓性シート207とが設けられている。ダイヤフラム208はアルミニウムや銅を主成分とする合金で形成され、導電性を持っている。ダイヤフラム208はボタン203に対応して設けられている。この電極209a、209bは前述の各種回路のうち、入力を検知する回路に接続している。

【0026】

図6（A）で示すように、通常の状態ではダイヤフラム208は一方の電極である209aとのみ接触している。図6（B）に示すように、使用者がボタン203を矢印の方向に押すと、可撓性シート207と、ダイヤフラム208とが変形し、ダイヤフラム208は電極209aと209bの両方と接触し導通がとれる。このようにして、ボタン操作の有無を検知して入力情報を得る。

【0027】

なお、本実施例では、発光装置を用いた場合を示したが、反射型または透過型の液晶表示装置を用いてもよい。

【0028】

本実施例は、実施の形態と自由に組み合わせることが可能である。

【0029】

(実施例2)

図7は、実施例1の電子装置の構成を説明するブロック図である。図7で示すシステムにおいて、キー入力部522には、表示装置523とキー入力検知部524が備えられている。CPU506のキーボードインターフェイス部508はキーボードコントロール回路(コントローラ)520を介して表示装置523が表示する記号の画像を制御する。なお、表示装置523とは、液晶表示装置または発光装置のどちらか一方を指す。

【0030】

また、キー入力検知部524からの信号は、入力信号処理回路521を介してキーボードインターフェイス部508に入力し、CPU506内部でデータ処理を行い、所定の情報をコントロール回路512に出力し、表示装置513にその情報を表示させたり送信をしたりする。

【0031】

その他の外部回路の構成は、安定化電源と高速高精度のオペアンプからなる電源504、音声処理回路502、外部インターフェイスポート505、送受信回路515などから成っている。また、CPU506には映像信号処理回路507が内蔵されている。また、CPU506にはVRAM511、DRAM509、フラッシュメモリ510及びメモリーカード503が接続されている。CPU503で処理された情報は、映像信号(データ信号)として映像信号処理回路507からコントロール回路512に出力する。コントロール回路512は、映像信号とクロックを表示装置513に供給する。具体的には、映像信号を表示装置の各画素に対応したデータに振り分ける機能と、外部から入力される水平同期信号及び垂直同期信号を、駆動回路のスタート信号及び内蔵電源回路の交流化のタイミング制御信号に変換する機能を持っている。

【0032】

図7で示すように、本発明の電子装置は、ボタンの下部に設けられた表示装置をCPUが集中して管理して制御する構成をとっている。

【0033】

また、本実施例は、実施の形態および実施例1と自由に組み合わせることが可

能である。

【0034】

(実施例3)

次に、実施例1、2で示した操作キーに表示装置を用いた電子装置の外観図を示す。図8(A)には、第一筐体と第二筐体を縦方向に並べたときに、表示部101に表示される記号の向きと、操作キー105に設けられているボタン106に表示される記号の向きとが、使用者側からみて本来の向きにある場合を示している。

【0035】

図8(B)には、第一筐体と第二筐体を縦方向に並べたときに、表示部101に表示される記号の向きと、操作キー105に設けられているボタン106に表示されている記号の向きが、使用者側からみて本来の向きにある場合を示している。

【0036】

本発明の電子装置は、使用者の使い勝手に合わせて、表示部101に表示される記号の向き及び操作キー105に設けられているボタン106に表示される記号の向きを、図8(A)に示した向きと図8(B)に示した向きとに切り替えることが可能である。

【0037】

なお、図8では表示部101に表示される画像の向きと、操作キー105に表示される記号の向きとが同じ場合について説明したが、本発明はこれに限定されない。表示部101に表示される画像の向きと、操作キー105に表示される記号の向きとが異なっても良い。また、図8に示した操作キー105が表示している記号は一例であり、本発明の電子装置はこれらの記号に限定されない。

【0038】

また、表示部101に表示される画像の向きと、操作キー105に表示される記号等の画像の向きとを、接続部100における第一筐体の表示部101を有する面と第二筐体の操作キー105に設けられているボタン106を有する面との間の角度 θ によって自動的に変更するような構成にしても良い。

【 0 0 3 9 】

また操作キー 1 0 5 の表示の明暗を切り替えられるような構成にしても良い。
図 9 (A) に示した操作キー 1 0 5 は白色の地に黒色の単数または複数の記号が表示されている。図 9 (B) に示した操作キー 1 0 5 は黒色の地に白色の単数または複数の記号が表示されている。

【 0 0 4 0 】

なお図 9 (A)、図 9 (B) では、黒色または白色で表示を行う操作キーについて説明したが、本発明はこの構成に限定されない。操作キーが白色以外の色の表示を行っても良い。例えば黒色の地に黄色表示、白色の地に緑色表示、または青色の地に黒色表示を行っても構わない。

【 0 0 4 1 】

上記構成によって、電子装置自体の消費電力を抑えることが可能である。

【 0 0 4 2 】

また、本実施例は、実施の形態および実施例 1、2 と自由に組み合わせることが可能である。

【 0 0 4 3 】

(実施例 4)

本実施例では、表示部 1 0 1 に用いられる表示装置、または操作キーの下部に設けられる表示装置を示す。本実施例では、表示装置として液晶表示装置を説明する。絶縁表面を有する基板上に画素部とそれを駆動する駆動回路を有した液晶表示装置の例（但し液晶材料封止前の状態）を図 1 0 に示す。

【 0 0 4 4 】

なお、駆動回路には基本単位となる CMOS 回路を示し、画素部には一つの画素を示す。

【 0 0 4 5 】

図 1 0 において、基板上には n チャネル型 TFT 6 0 5、n チャネル型 TFT 6 0 6 と p チャネル型 TFT 6 0 3、p チャネル型 TFT 6 0 4 からなる駆動回路 6 0 1、n チャネル型 TFT からなる画素 TFT 6 0 7 および保持容量 6 0 8 からなる画素部 6 0 2 が形成されている。また、本実施例では、TFT はすべて

トップゲート型TFTで形成されている。

【0046】

また、画素TFT607はソース領域およびドレイン領域の間に二つのチャンネル形成領域を有した構造（ダブルゲート構造）となっているが、本実施例はダブルゲート構造に限定されることなく、チャンネル形成領域が一つ形成されるシングルゲート構造もしくは三つ形成されるトリプルゲート構造であっても良い。

【0047】

また、本実施例では、画素TFTのドレイン領域と接続する画素電極を反射電極とした。その画素電極610の材料としては、AlまたはAgを主成分とする膜、またはそれらの積層膜等の反射性の優れた材料を用いることが望ましい。また、画素電極を形成した後、公知のサンドブラスト法やエッチング法等の工程を追加して表面を凹凸化させて、鏡面反射を防ぎ、反射光を散乱させることによって白色度を増加させることが好ましい。

【0048】

なお、本実施例では画素電極を反射電極とした反射型の液晶表示装置の例を示したが、反射電極に代えて画素電極として透明導電膜を用いた透過型の液晶表示装置を用いてもよい。

【0049】

図10の状態を得た後、画素電極上に配向膜を形成しラビング処理を行う。なお、本実施例では配向膜を形成する前に、アクリル樹脂膜等の有機樹脂膜をパターンニングすることによって基板間隔を保持するための柱状のスペーサを所望の位置に形成した。また、柱状のスペーサに代えて、球状のスペーサを基板全面に散布してもよい。

【0050】

次いで、対向基板を用意する。次いで、対向基板上に着色層、遮光層を形成した後、平坦化膜を形成する。次いで、平坦化膜上に透明導電膜からなる対向電極を少なくとも画素部に形成し、対向基板の全面に配向膜を形成し、ラビング処理を施した。

【0051】

そして、画素部と駆動回路が形成されたステンレス基板と固定基板とを接着層（本実施例ではシール材）で貼り合わせる。接着層にはフィラーが混入されていて、このフィラーと柱状スペーサによって均一な間隔を持って2枚の基板が貼り合わせられる。その後、両基板の間に液晶材料を注入し、封止剤（図示せず）によって完全に封止する。液晶材料には公知の液晶材料を用いれば良い。

【0052】

次いで、液晶の封止（または封入）工程まで行った後、実施の形態および実施例1に示したように基板ホルダーを分離した。その後の液晶表示装置の状態について図11を用いて説明する。

【0053】

図11に示す上面図は、画素部、駆動回路、FPC（フレキシブルプリント配線板：Flexible Printed Circuit）を貼り付ける外部入力端子、外部入力端子と各回路の入力部までを接続する配線81などが形成されたステンレス基板82aと、カラーフィルタなどが設けられた対向基板82bとがシール材83を介して貼り合わされている。

【0054】

ゲート側駆動回路84と重なるように対向基板側に遮光層86aが設けられ、ソース側駆動回路85と重なるように対向基板側に遮光層86bが形成されている。また、画素部87上の対向基板側に設けられたカラーフィルタ88は遮光層と、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の各色の着色層とが各画素に対応して設けられている。実際に表示する際には、赤色（R）の着色層、緑色（G）の着色層、青色（B）の着色層の3色でカラー表示を形成するが、これら各色の着色層の配列は任意なものとする。

【0055】

ここでは、カラー化を図るためにカラーフィルタ88を対向基板に設けているが特に限定されず、基板上に素子を作製する際にカラーフィルタを形成してもよい。

【0056】

また、カラーフィルタにおいて隣り合う画素の間には遮光層が設けられており

、表示領域以外の箇所を遮光している。また、駆動回路を覆う領域にも遮光層 8 6 a、遮光層 8 6 b を設けているが、駆動回路を覆う領域は、後に液晶表示装置を電子装置の表示部として組み込む際、カバーで覆うため、特に遮光層を設けない構成としてもよい。また、基板上に必要な素子を作製する際、基板上に遮光層を形成してもよい。

【 0 0 5 7 】

また、上記遮光層を設けずに、対向基板と対向電極の間に、カラーフィルタを構成する着色層を複数層重ねた積層で遮光するように適宜配置し、表示領域以外の箇所（各画素電極の間隙）や、駆動回路を遮光してもよい。

【 0 0 5 8 】

また、外部入力端子にはベースフィルムと配線から成る F P C 8 9 が異方性導電性樹脂で貼り合わされている。さらに補強板で機械的強度を高めている。

【 0 0 5 9 】

また、対向基板のみに偏光板（図示しない）を貼りつける。

【 0 0 6 0 】

以上のようにして作製される液晶表示装置は本発明で用いられる電子装置の表示部に用いることができる。

【 0 0 6 1 】

また、本実施例の液晶表示装置の回路構成例を図 1 2 に示す。

【 0 0 6 2 】

図 1 2 （A）はアナログ駆動を行うための回路構成である。本実施例では、ソース側駆動回路 9 0、画素部 9 1 及びゲート側駆動回路 9 2 を有している。本明細書中において、駆動回路とはソース側処理回路およびゲート側駆動回路を含めた総称である。

【 0 0 6 3 】

ソース側駆動回路 9 0 は、シフトレジスタ 9 0 a、バッファ 9 0 b、サンプリング回路（トランスファゲート） 9 0 c を設けている。また、ゲート側駆動回路 9 2 は、シフトレジスタ 9 2 a、レベルシフタ 9 2 b、バッファ 9 2 c を設けている。また、必要であればサンプリング回路とシフトレジスタとの間にレベルシ

フタ回路を設けてもよい。

【0064】

また、本実施例において、画素部 9 1 は複数の画素を含み、その複数の画素に各々 T F T 素子が設けられている。また、これらのソース側駆動回路 9 0 およびゲート側駆動回路 9 2 は、全て p チャンネル型 T F T あるいは全て n チャンネル型 T F T で形成することもできる。

【0065】

なお、図示していないが、画素部 9 1 を挟んでゲート側駆動回路 9 2 の反対側にさらにゲート側駆動回路を設けても良い。

【0066】

また、デジタル駆動させる場合は、図 1 2 (B) に示すように、サンプリング回路の代わりにラッチ (A) 9 3 b、ラッチ (B) 9 3 c を設ければよい。ソース側駆動回路 9 3 は、シフトレジスタ 9 3 a、ラッチ (A) 9 3 b、ラッチ (B) 9 3 c、D / A コンバータ 9 3 d、バッファ 9 3 e を設けている。また、ゲート側駆動回路 9 5 は、シフトレジスタ 9 5 a、レベルシフタ 9 5 b、バッファ 9 5 c を設けている。また、必要であればラッチ (B) 9 3 c と D / A コンバータ 9 3 d との間にレベルシフタ回路を設けてもよい。

【0067】

また、本実施例では画素部と駆動回路の構成のみ示しているが、さらにメモリやマイクロプロセッサを形成してもよい。

【0068】

なお、本実施例は、発明の実施の形態および実施例 1 乃至実施例 3 と自由に組み合わせることが可能である。

【0069】

(実施例 5)

本実施例では、本発明の電子装置の表示部に用いられる液晶表示装置の画素部及び駆動回路に用いる T F T を逆スタガ型 T F T で構成した例を図 1 3 に示す。図 1 3 (A) は、画素部の画素の一つを拡大した上面図であり、図 1 3 (A) において、点線 A - A ' で切断した部分が、図 1 3 (B) の画素部の断面構造に相当

する。なお、図 1 3 (B) において、5 1 は絶縁表面を有する基板である。

【0 0 7 0】

画素部において、画素 T F T 部は n チャネル型 T F T で形成されている。基板 5 1 上にゲート電極 5 2 が形成され、その上に窒化珪素からなる第 1 絶縁膜 5 3 a、酸化珪素からなる第 2 絶縁膜 5 3 b が設けられている。また、第 2 絶縁膜上には、活性層として n+ 領域 5 4 ~ 5 6 と、チャネル形成領域 5 7、5 8 と、前記 n+ 型領域とチャネル形成領域の間に n- 型領域 5 9、6 0 が形成される。また、チャネル形成領域 5 7、5 8 は絶縁層 6 1、6 2 で保護される。絶縁層 6 1、6 2 及び活性層を覆う第 1 の層間絶縁膜 6 3 にコンタクトホールを形成した後、n+ 領域 5 4 に接続する配線 6 4 が形成され、n+ 領域 5 6 に A 1 あるいは A g 等からなる画素電極 6 5 が接続され、さらにその上にパッシベーション膜 6 6 が形成される。また、7 0 は画素電極 6 9 と隣接する画素電極である。

【0 0 7 1】

なお、本実施例では、画素部の画素 T F T のゲート配線をダブルゲート構造としているが、オフ電流のバラツキを低減するために、トリプルゲート構造等のマルチゲート構造としても構わない。また、開口率を向上させるためにシングルゲート構造としてもよい。

【0 0 7 2】

また、画素部の容量部は、第 1 絶縁膜及び第 2 絶縁膜を誘電体として、容量配線 7 1 と、n+ 領域 5 6 とで形成されている。

【0 0 7 3】

なお、図 1 3 で示した画素部はあくまで一例に過ぎず、本発明の表示装置は、上記の構成に限定されない。

【0 0 7 4】

また、本実施例は、実施の形態および実施例 1 乃至実施例 4 と自由に組み合わせることが可能である。

【0 0 7 5】

(実施例 6)

本実施例では、表示部 1 0 1 に用いられる表示装置、または操作キー 1 0 5 の

下部に設けられる表示装置を示す。本実施例では、表示装置として発光装置を説明する。

【0076】

同一の基板上に画素部とそれを駆動する駆動回路を有した発光装置の例（但し封止前の状態）を図14に示す。なお、駆動回路には基本単位となるCMOS回路を示し、画素部には一つの画素を示す。

【0077】

図14において、701は基板、基板上には絶縁膜が形成され、その上にはnチャネル型TFTとpチャネル型TFTからなる駆動回路704、pチャネル型TFTからなるスイッチングTFT702およびnチャネル型TFTからなる電流制御TFT703とが形成されている。また、本実施例では、TFTはすべてトップゲート型TFTで形成されている。

【0078】

また、スイッチングTFT702はソース領域およびドレイン領域の間に二つのチャネル形成領域を有した構造（ダブルゲート構造）となっているが、本実施例はダブルゲート構造に限定されることなく、チャネル形成領域が一つ形成されるシングルゲート構造もしくは三つ形成されるトリプルゲート構造であっても良い。

【0079】

また、電流制御TFTのドレイン領域706の上には第2層間絶縁膜708が設けられる前に、第1層間絶縁膜707にコンタクトホールが設けられている。これは第2層間絶縁膜708にコンタクトホールを形成する際に、エッチング工程を簡単にするためである。第2層間絶縁膜708にはドレイン領域706に到達するようにコンタクトホールが形成され、ドレイン領域706に接続された画素電極709が設けられている。画素電極709は発光素子の陰極として機能する電極であり、周期表の1族もしくは2族に属する元素を含む導電膜を用いて形成されている。本実施例では、リチウムとアルミニウムとの化合物からなる導電膜を用いる。

【0080】

次に、713は画素電極709の端部を覆うように設けられた絶縁膜であり、本明細書中ではバンクと呼ぶ。バンク713は珪素を含む絶縁膜もしくは樹脂膜で形成すれば良い。樹脂膜を用いる場合、樹脂膜の比抵抗が $1 \times 10^6 \sim 1 \times 10^{12} \Omega \text{m}$ （好ましくは $1 \times 10^8 \sim 1 \times 10^{10} \Omega \text{m}$ ）となるようにカーボン粒子もしくは金属粒子を添加すると、成膜時の絶縁破壊を抑えることができる。

【0081】

また、発光素子710は画素電極（陰極）709、有機化合物層711および陽極712からなる。陽極712は、仕事関数の大きい導電膜、代表的には酸化物導電膜が用いられる。酸化物導電膜としては、酸化インジウム、酸化スズ、酸化亜鉛もしくはそれらの化合物を用いれば良い。本実施例の発光装置は、上方出射の発光装置となる。なお、本実施例は上方出射の発光装置に限定されることなく、発光素子の構造を適宜変更すれば、下方出射の発光装置とすることができる。

【0082】

なお、本明細書中では正孔注入層、正孔輸送層、正孔阻止層、電子輸送層、電子注入層もしくは電子阻止層などを組み合わせた積層体を有機化合物層と定義する。

【0083】

また、有機化合物層としては、発光材料であれば特に限定されないが、例えば一重項励起により発光する発光材料（シングレット化合物）からなる薄膜、または三重項励起により発光する発光材料（トリプレット化合物）からなる薄膜を用いることができる。

【0084】

なお、ここでは図示しないが陽極712を形成した後、発光素子710を完全に覆うようにしてパッシベーション膜を設けることは有効である。パッシベーション膜としては、炭素膜、窒化珪素膜もしくは窒化酸化珪素膜を含む絶縁膜からなり、該絶縁膜を単層もしくは組み合わせた積層で用いる。

【0085】

次いで、発光素子を保護するための封止（または封入）工程まで行う。その後

の発光装置について図 1 5 (A)、図 1 5 (B) を用いて説明する。

【0086】

図 1 5 (A) は、発光素子の封止までを行った状態を示す上面図、図 1 5 (B) は図 1 5 (A) を A-A' で切断した断面図である。点線で示された 8 0 1 は画素部、8 0 2 はソース側駆動回路、8 0 3 はゲート側駆動回路である。また、8 0 4 はカバー材、8 0 5 は第 1 シール材、8 0 6 は第 2 シール材である。

【0087】

なお、8 0 8 はソース側駆動回路 8 0 2 及びゲート側駆動回路 8 0 3 に入力される信号を伝送するための配線であり、外部入力端子となる F P C (フレキシブルプリントサーキット) 8 0 8 からビデオ信号やクロック信号を受け取る。なお、ここでは F P C しか図示されていないが、この F P C にはプリント配線基盤 (PWB) が取り付けられていても良い。

【0088】

次に、断面構造について図 1 5 (B) を用いて説明する。基板 8 0 0 の上方には画素部、ソース側駆動回路 8 0 9 が形成されており、画素部は電流制御 T F T 7 1 0 とそのドレインに電氣的に接続された画素電極 8 1 1 を含む複数の画素により形成される。また、ソース側駆動回路 8 0 9 は n チャネル型 T F T と p チャネル型 T F T とを組み合わせた C M O S 回路を用いて形成される。なお、基板 8 0 0 には偏光板 (代表的には円偏光板) を貼り付けても良い。

【0089】

また、画素電極 8 1 1 の両端にはバンク 8 1 2 が形成され、画素電極 8 1 1 上には有機化合物層 8 1 3 および発光素子の陽極 8 1 4 が形成される。陽極 8 1 4 は全画素に共通の配線としても機能し、接続配線 8 1 5 を経由して F P C 8 1 6 に電氣的に接続されている。さらに、画素部及びソース側駆動回路 8 0 9 に含まれる素子は全てパッシベーション膜 (図示しない) で覆われている。

【0090】

また、第 1 シール材 8 0 5 によりカバー材 8 0 4 が貼り合わされている。なお、カバー材 8 0 4 と発光素子との間隔を確保するためにスペーサを設けても良い。そして、第 1 シール材 8 0 5 の内側には空隙 8 1 7 が形成されている。なお、

第 1 シール材 8 0 5 は水分や酸素を透過しない材料であることが望ましい。さらに、空隙 8 1 7 の内部に吸湿効果をもつ物質や酸化防止効果をもつ物質を設けることは有効である。

【 0 0 9 1 】

なお、カバー材 8 0 4 の表面および裏面には保護膜として炭素膜（具体的にはダイヤモンドライクカーボン膜）を 2 ～ 3 0 n m の厚さに設けると良い。このような炭素膜（ここでは図示しない）は、酸素および水の侵入を防ぐとともにカバー材 8 0 4 の表面を機械的に保護する役割をもつ。

【 0 0 9 2 】

また、カバー材 8 0 4 を接着した後、第 1 シール材 8 0 5 の露呈面を覆うように第 2 シール材 8 0 6 を設けている。第 2 シール材 8 0 6 は第 1 シール材 8 0 5 と同じ材料を用いることができる。

【 0 0 9 3 】

以上のような構造で発光素子を封入することにより、発光素子を外部から完全に遮断することができ、外部から水分や酸素等の有機化合物層の酸化による劣化を促す物質が侵入することを防ぐことができる。従って、信頼性の高い発光装置が得られる。

【 0 0 9 4 】

なお、本実施例は、発明の実施の形態および実施例 1 乃至実施例 5 と自由に組み合わせることが可能である。

【 0 0 9 5 】

（実施例 7）

本実施例では、表示装置の各画素に光電変換素子（フォトダイオード）を組み込んだ例を示す。本実施例では、発光装置の各画素に光電変換素子を組み込んだ例を説明する。

【 0 0 9 6 】

図 1 6 に画素 1 0 0 2 の詳しい構成を示す。点線で囲まれた領域が画素 1 0 0 2 である。

【 0 0 9 7 】

画素1002はスイッチング用TFT1004、駆動用TFT1005、発光素子1006を有している。また図15では画素1002にコンデンサ1007が設けられているが、コンデンサ1007を設けなくとも良い。

【0098】

発光素子1006は陽極と陰極と、陽極と陰極との間に設けられた有機化合物層とからなる。陰極が駆動用TFT1005のソース領域またはドレイン領域と接続している場合、陽極が対向電極、陰極が画素電極となり、発光方向が下方出射となる。逆に陽極が駆動用TFT1005のソース領域またはドレイン領域と接続している場合、陽極が画素電極、陰極が対向電極となり、発光方向が上方出射となる。

【0099】

スイッチング用TFT1004のゲート電極はゲート信号線(G)に接続されている。そしてスイッチング用TFT1004のソース領域とドレイン領域は、一方がソース信号線(S)に、もう一方が駆動用TFT1005のゲート電極に接続されている。

【0100】

駆動用TFT1005のソース領域は電源供給線(V)に接続されており、駆動用TFT1005のドレイン領域は、発光素子1006に接続されている。コンデンサ1007は駆動用TFT1005のゲート電極と電源供給線Vとに接続して設けられている。

【0101】

さらに画素1002は、リセット用TFT1010、バッファ用TFT1011、選択用TFT1012、フォトダイオード1013を有している。

【0102】

リセット用TFT1010のゲート電極はリセット用ゲート信号線(RG)に接続されている。リセット用TFT1010のソース領域はセンサ用電源線VBに接続されている。センサ用電源線(VB)は常に一定の電位(基準電位)に保たれている。またリセット用TFT1010のドレイン領域はフォトダイオード1013及びバッファ用TFT1011のゲート電極に接続されている。

【0103】

図示しないが、フォトダイオード1013はN型半導体層と、P型半導体層と、N型半導体層とP型半導体層の間に設けられた光電変換層とを有している。リセット用TFT1010のドレイン領域は、具体的にはフォトダイオード1013のP型半導体層又はN型半導体層に接続されている。

【0104】

バッファ用TFT1011のドレイン領域はセンサ用電源線(VB)に接続されており、常に一定の基準電位に保たれている。そしてバッファ用TFT1011のソース領域は選択用TFT1012のソース領域又はドレイン領域に接続されている。

【0105】

選択用TFT1012のゲート電極はセンサ用ゲート信号線(SG)に接続されている。そして選択用TFT1012のソース領域とドレイン領域は、一方は上述したとおりバッファ用TFT1011のソース領域に接続されており、もう一方はセンサ出力配線(SS)に接続されている。センサ出力配線(SS)は定電流電源1003に接続されており、常に一定の電流が流れている。

【0106】

また、図17に本実施例の画素の断面図を示す。1101はスイッチング用TFT、1102は駆動用TFT、1103はリセット用TFT、1104はバッファ用TFT、1105は選択用TFTである。

【0107】

また、1108はP型半導体層、1109は光電変換層、1107はN型半導体層である。P型半導体層1108と、光電変換層1109と、N型半導体層1107とによって、フォトダイオード1106が形成される。1111はセンサ用配線であり、N型半導体層1107と外部の電源とを電氣的に接続している。また、フォトダイオード1106のP型半導体層1108とリセット用TFT1103のドレイン領域とは電氣的に接続されている。

【0108】

また1110は画素電極(陽極)、1112は有機化合物層、1113は対向

電極（陰極）である。画素電極（陽極）1112と、有機化合物層1112と、対向電極（陰極）1113とで発光素子1114が形成される。なお1115はバンクであり、隣り合う画素同士の有機化合物層1112を区切っている。

【0109】

1116は被写体であり、発光素子1114から発せられた光が被写体1116において反射し、フォトダイオード1106に照射される。本実施例では、被写体を基板1100のTFTが形成されていない側に設ける。

【0110】

本実施例において、スイッチング用TFT1101、バッファ用TFT1104、選択用TFT1105は全てNチャネル型TFTである。また駆動用TFT1102、リセット用TFT1103はPチャネル型TFTである。なお本発明はこの構成に限定されない。よってスイッチング用TFT1101、駆動用TFT1102、バッファ用TFT1104、選択用TFT1105、リセット用TFT1103は、Nチャネル型TFTとPチャネル型TFTのどちらでも良い。

【0111】

ただし、本実施例のように駆動用TFT1102のソース領域またはドレイン領域が発光素子1114の陽極1113と電氣的に接続されている場合、駆動用TFT1102はPチャネル型TFTであることが望ましい。また逆に、駆動用TFT1102のソース領域またはドレイン領域が発光素子1114の陰極と電氣的に接続されている場合、駆動用TFT1102はNチャネル型TFTであることが望ましい。

【0112】

なお、本実施例のフォトダイオードは他のTFTと同時に形成することができるので、工程数を抑えることができる。また、本実施例は、実施の形態および実施例1乃至実施例6と自由に組み合わせることが可能である。

【発明の効果】

本発明の電子装置は、第一筐体と第二筐体が蝶番によって連結されているため、折り畳むことができ、小型化が可能である。また、本発明の電子装置は、第一筐体と第二筐体を蝶番によって折り畳んだ状態においてのみ、第一筐体の第一の

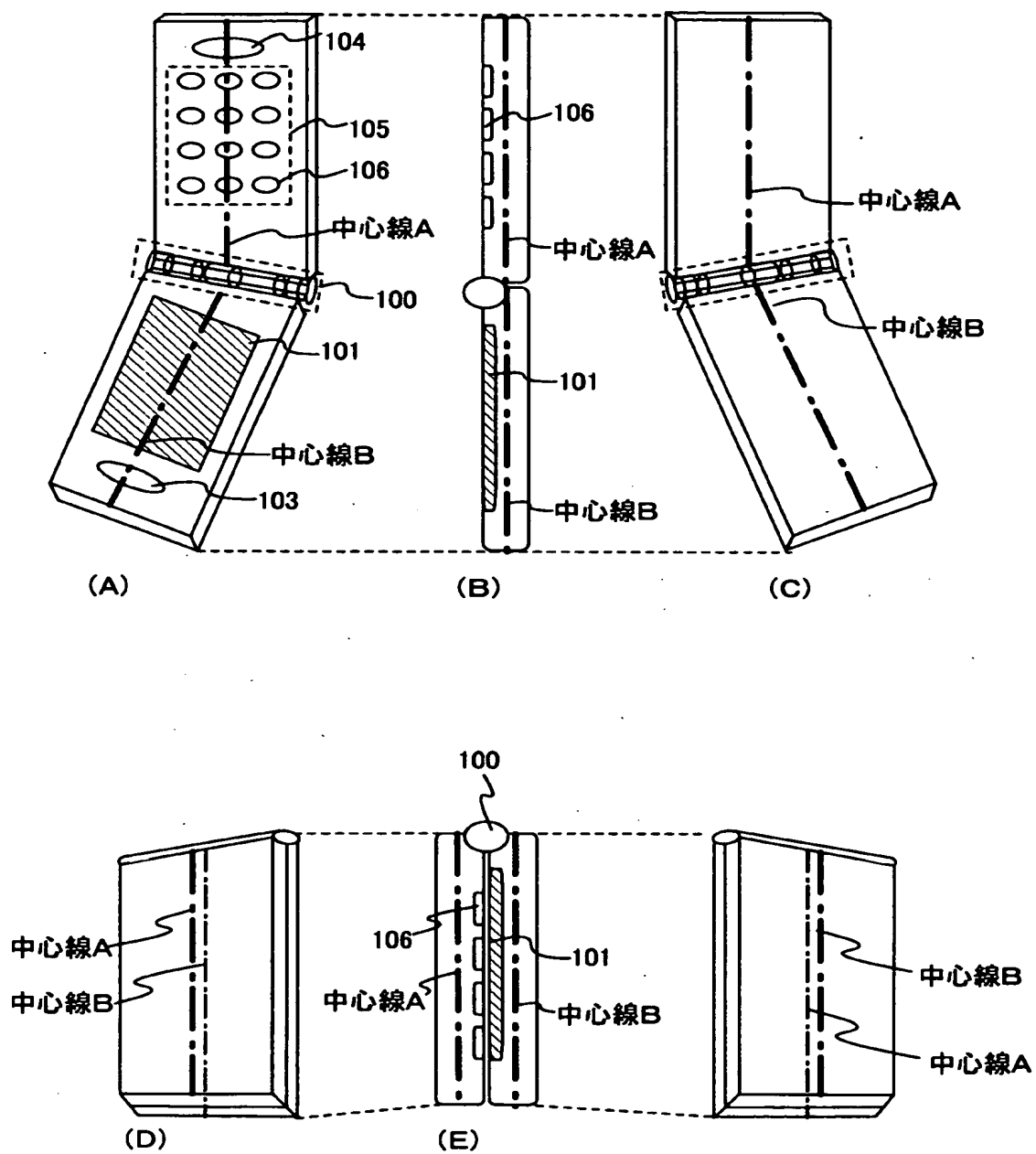
中心線と第二筐体の第二の中心線が一致し、かつ平行となる形状を有している。
 そのため、送話部を有する電子装置を使用する際には、送話部を口の近くに持っていきやすく、相手先に音声をよりクリアにして出力することができる。

【図面の簡単な説明】

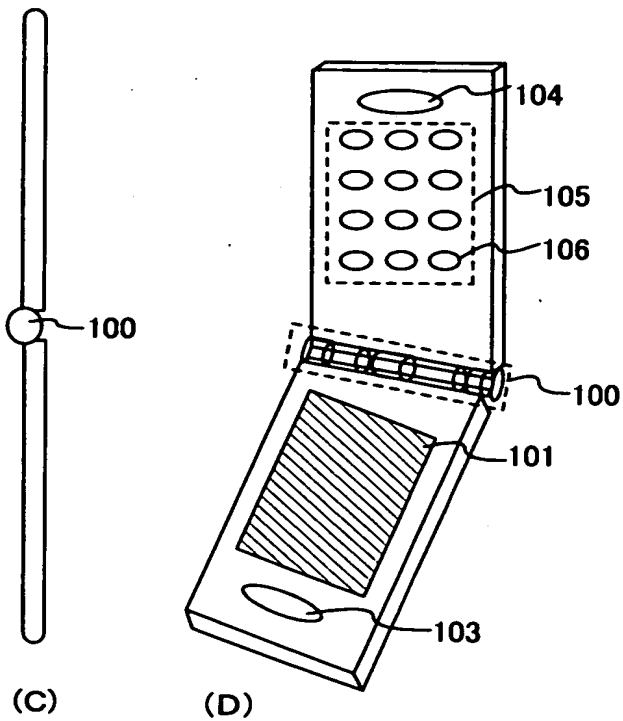
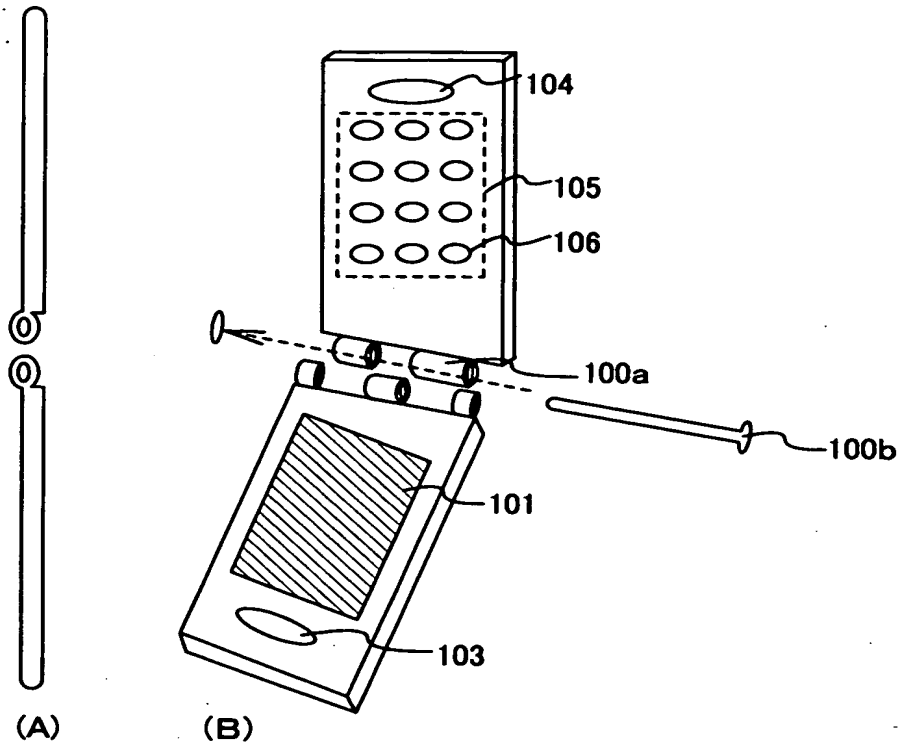
- 【図 1】 本発明の電子装置の外観を説明する図。
- 【図 2】 本発明の蝶番の仕組みを説明する図。
- 【図 3】 筐体内のプリント基板及び蝶番の配置を説明する図。
- 【図 4】 本発明の電子装置の操作形態について説明する図。
- 【図 5】 本発明の表示部の使用形態について説明する図。
- 【図 6】 筐体内のプリント基板及び発光装置の配置を説明する図。
- 【図 7】 本発明の電子装置のシステムブロック図。
- 【図 8】 本発明の電子装置の使用形態について説明する図。
- 【図 9】 本発明の電子装置の使用形態について説明する図。
- 【図 1 0】 アクティブマトリクス型液晶表示装置の断面図。
- 【図 1 1】 アクティブマトリクス型液晶表示装置の外観図。
- 【図 1 2】 アクティブマトリクス型液晶表示装置の駆動回路のブロック図。
- 【図 1 3】 アクティブマトリクス型液晶表示装置の上面図及び断面図。
- 【図 1 4】 発光装置の断面図。
- 【図 1 5】 発光装置の上面図及び断面図。
- 【図 1 6】 センサ（フォトダイオード）を有する画素の回路図。
- 【図 1 7】 センサ（フォトダイオード）を有する画素の断面図。

【書類名】 図面

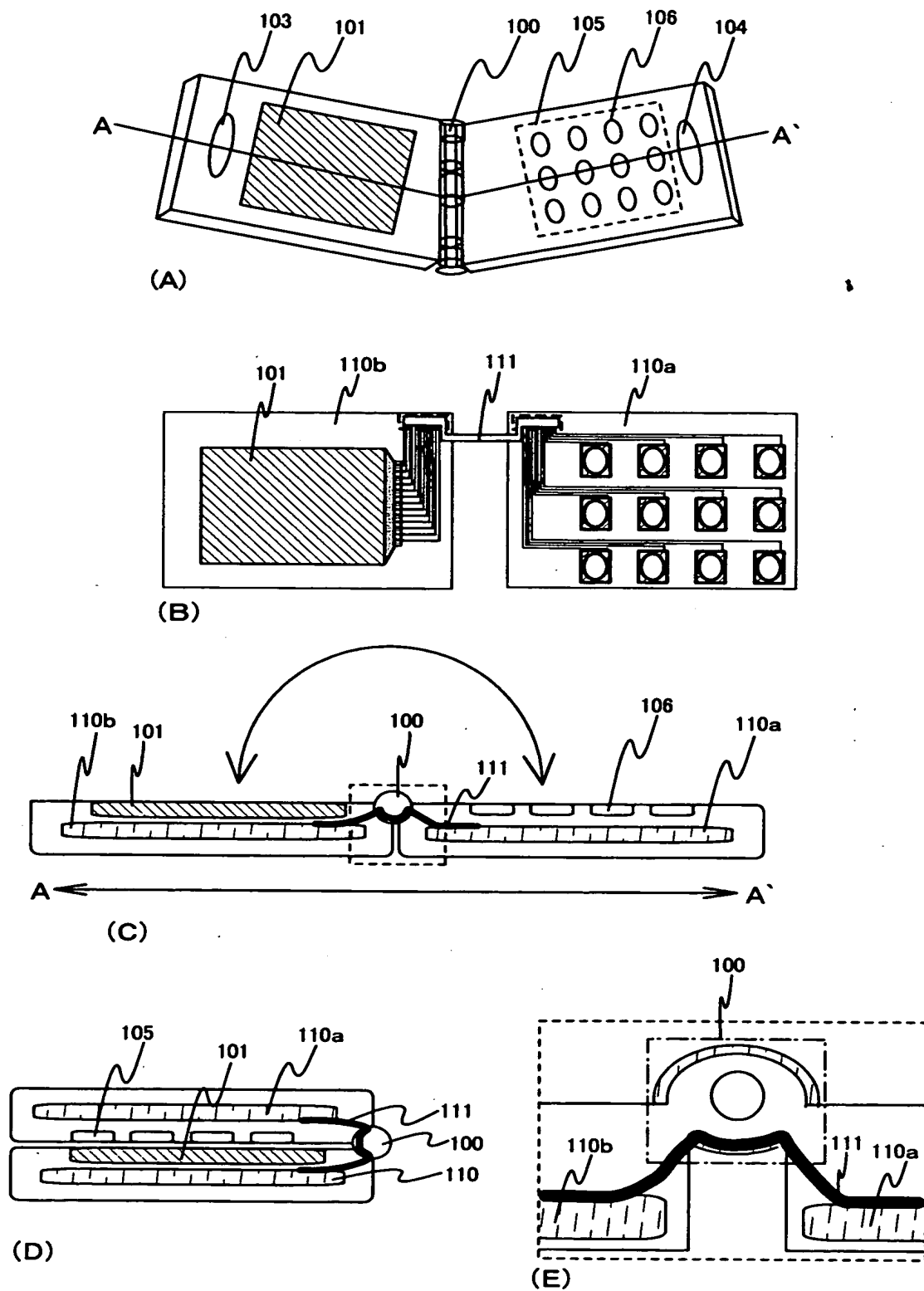
【図 1】



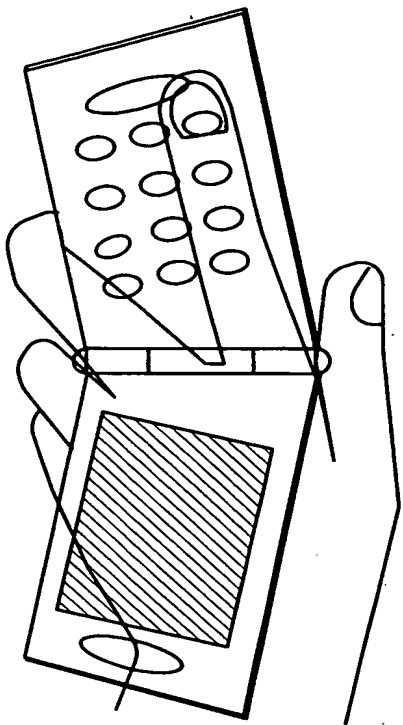
【図 2】



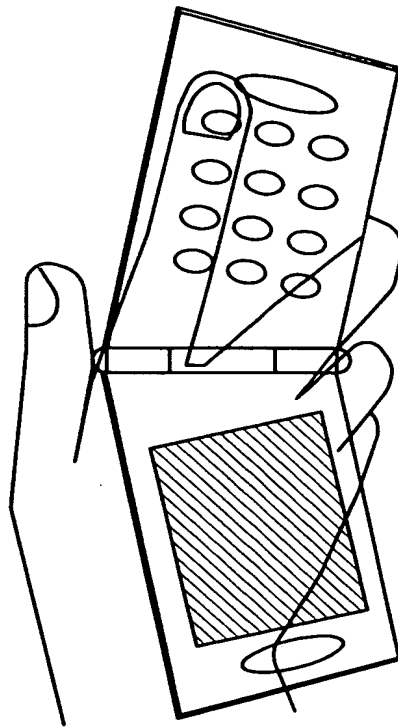
【図 3】



【図 4】

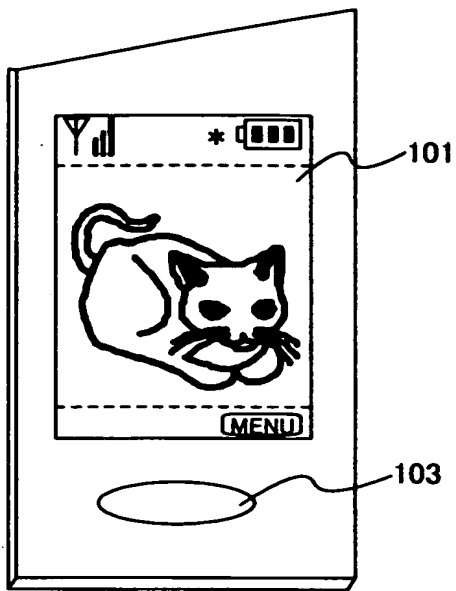


(A) 左手で操作キーを
操作している図

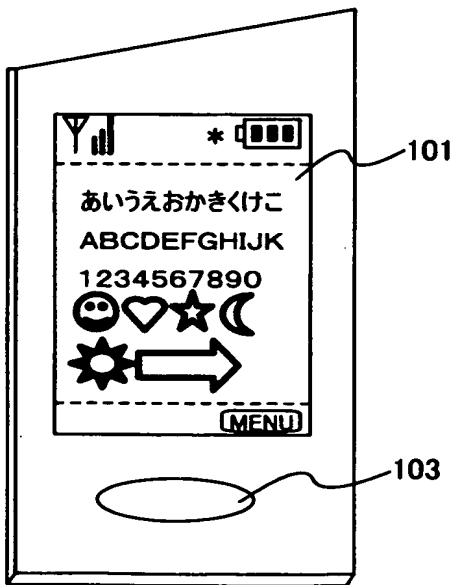


(B) 右手で操作キーを
操作している図

【図 5】

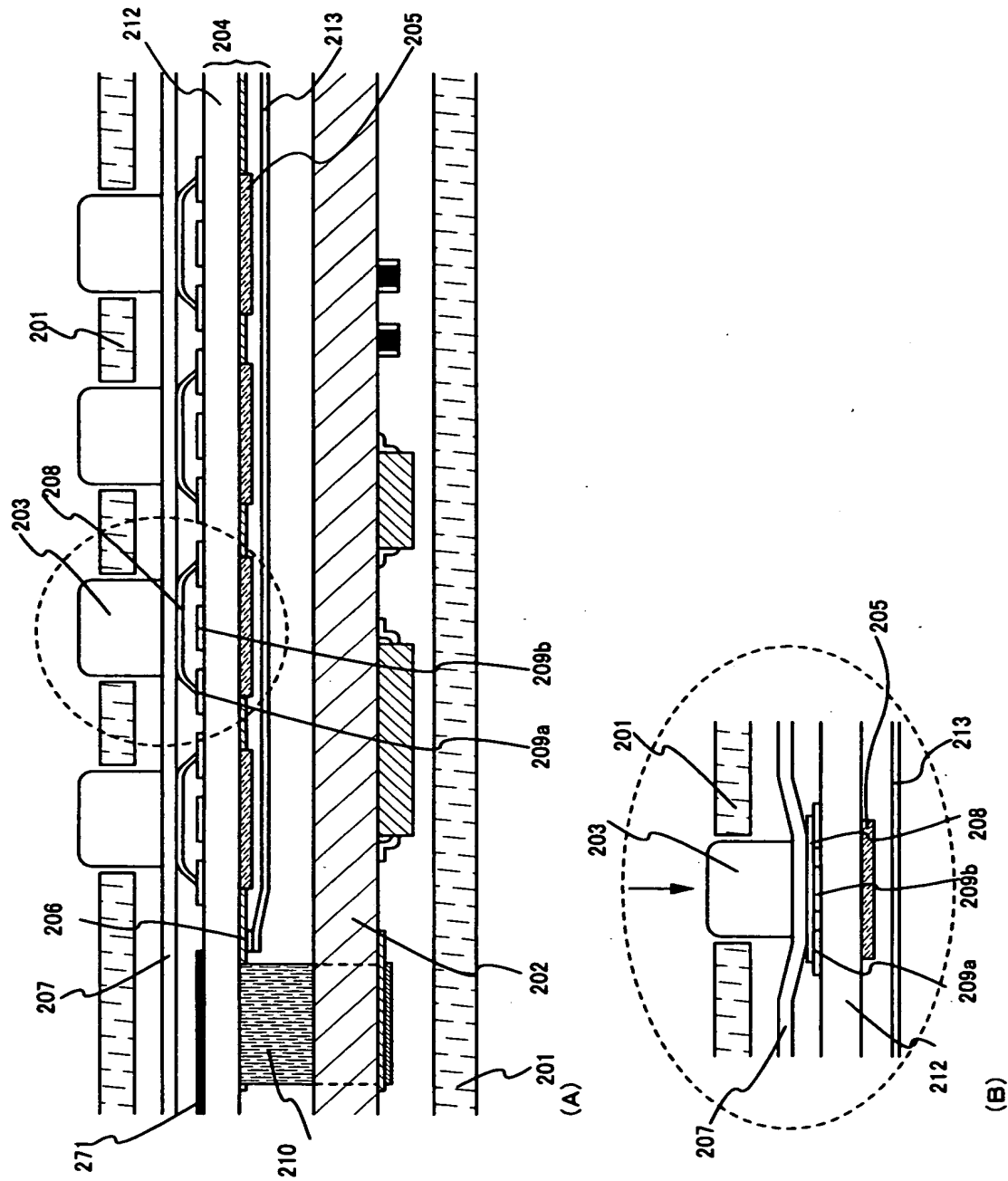


(A)

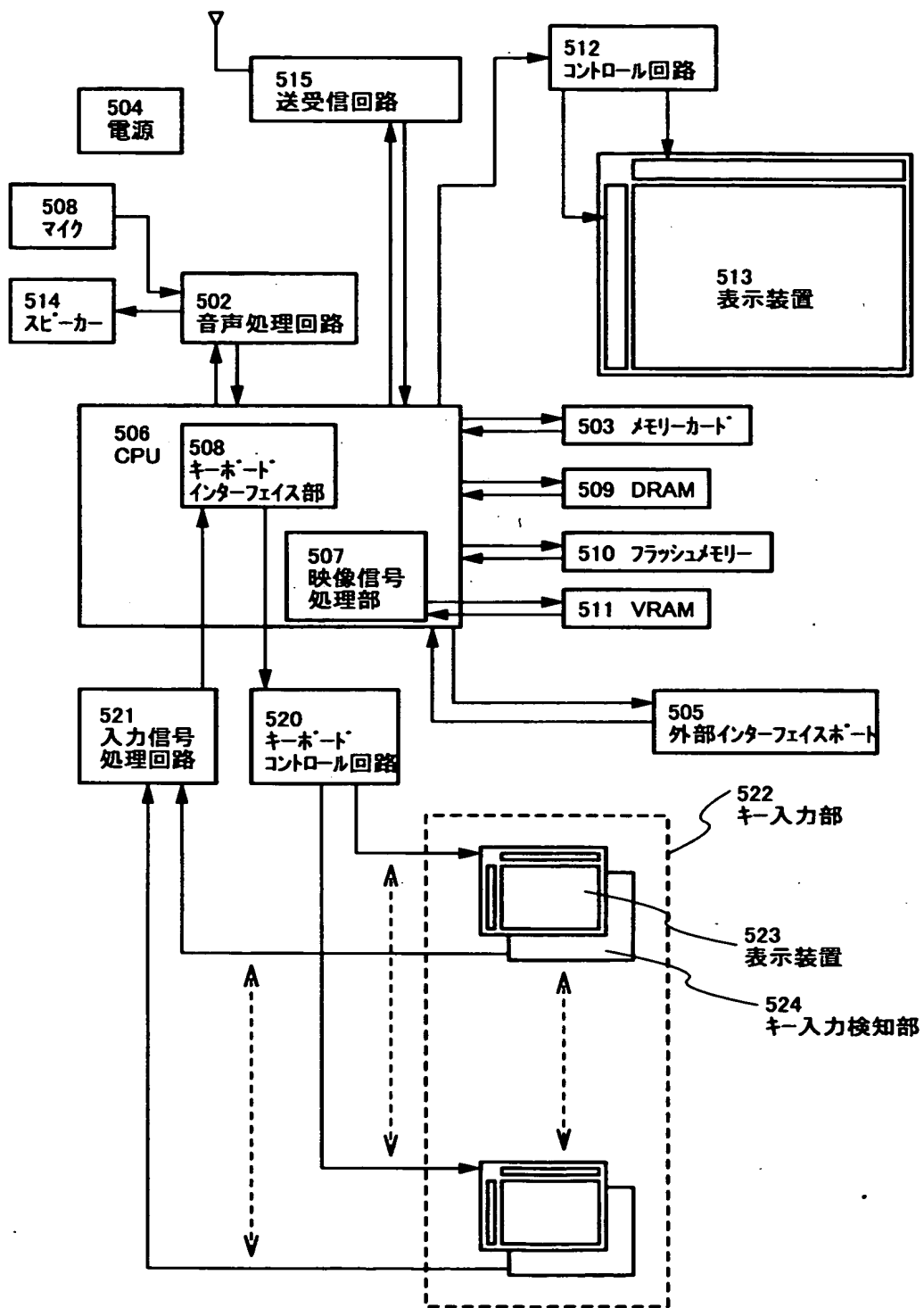


(B)

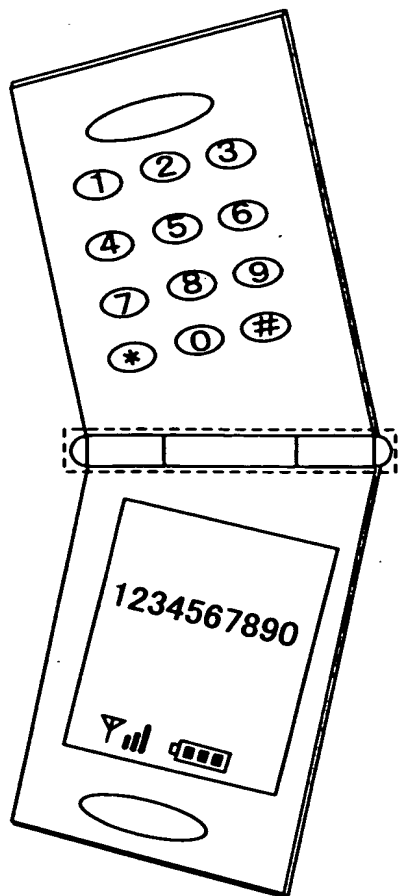
【図6】



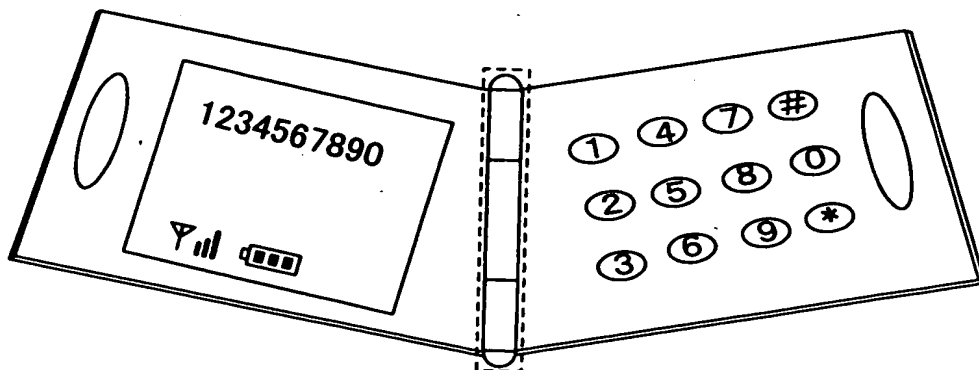
【図 7】



【図8】

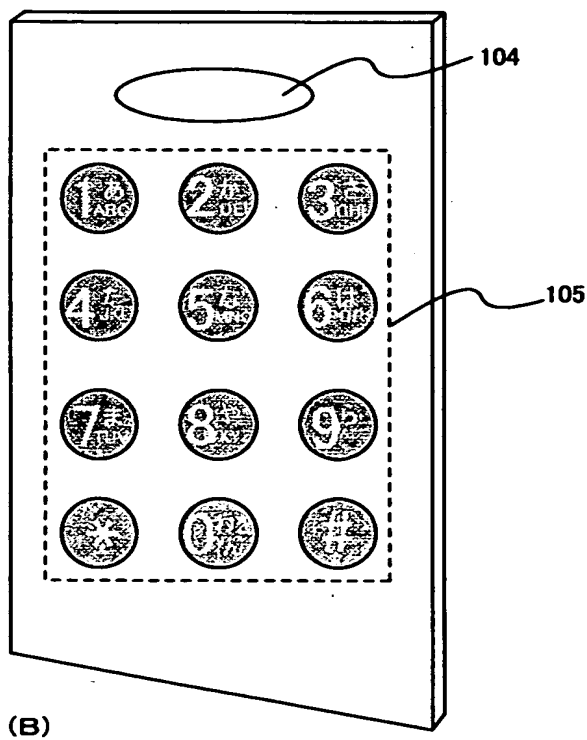
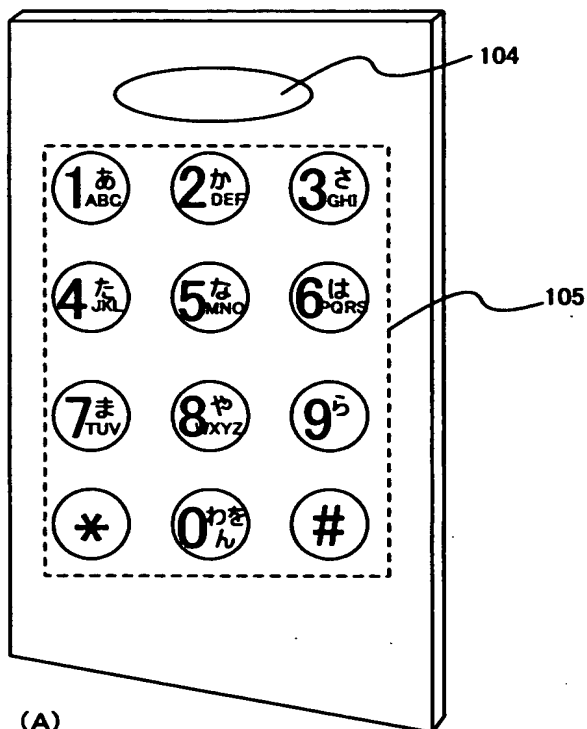


(A) 縦方向に使用している図

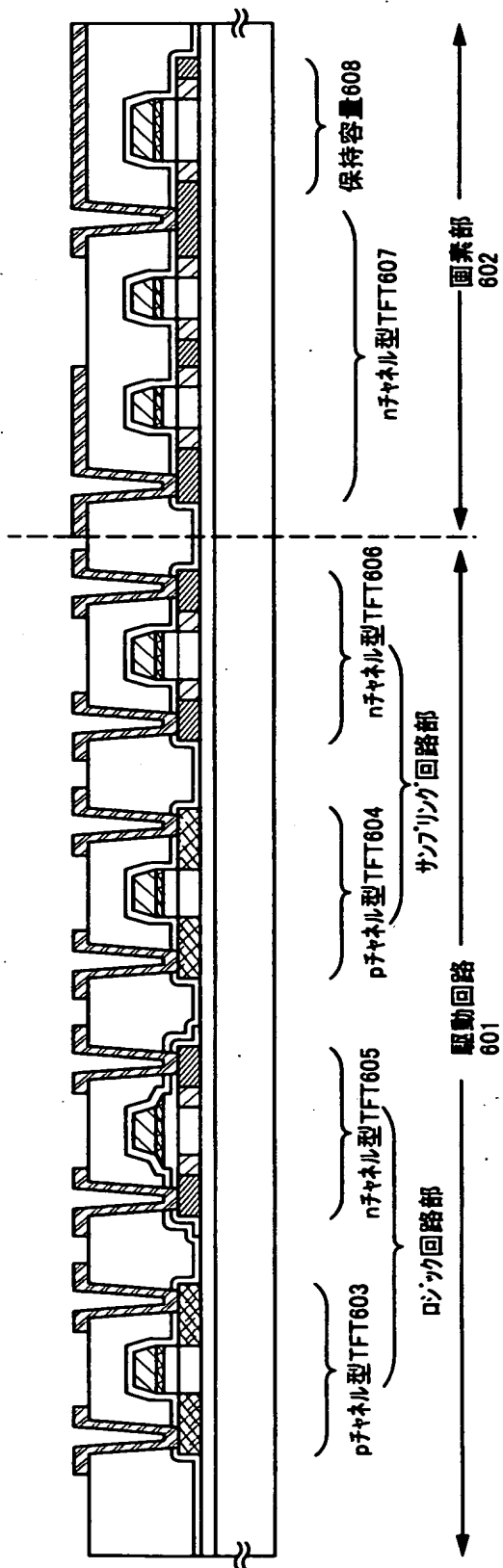


(B) 横方向に使用している図

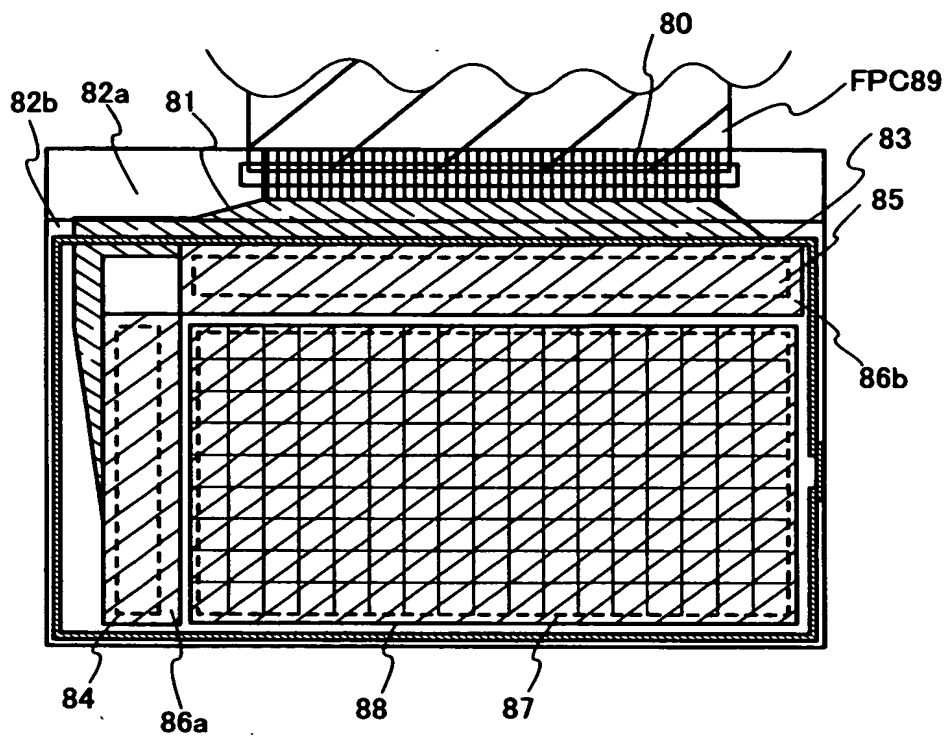
【図9】



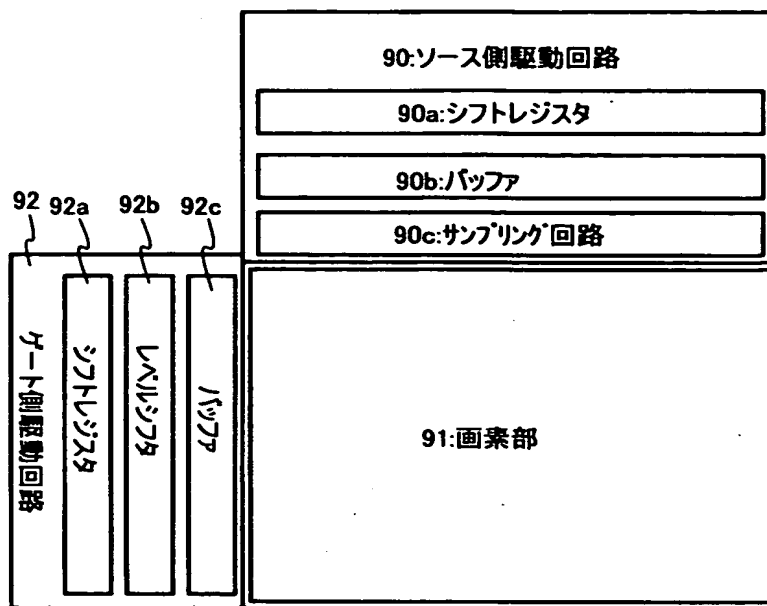
【図10】



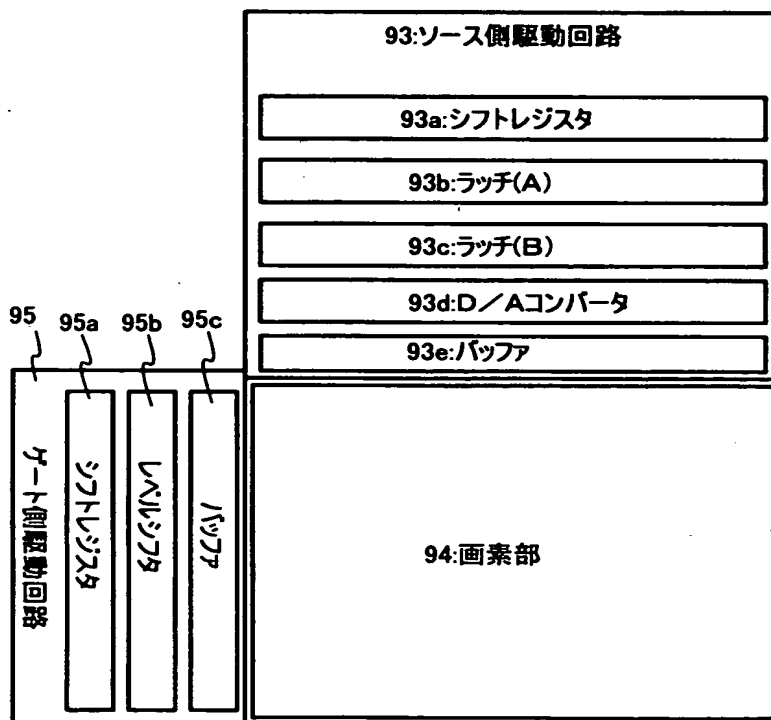
【図 11】



【図 12】

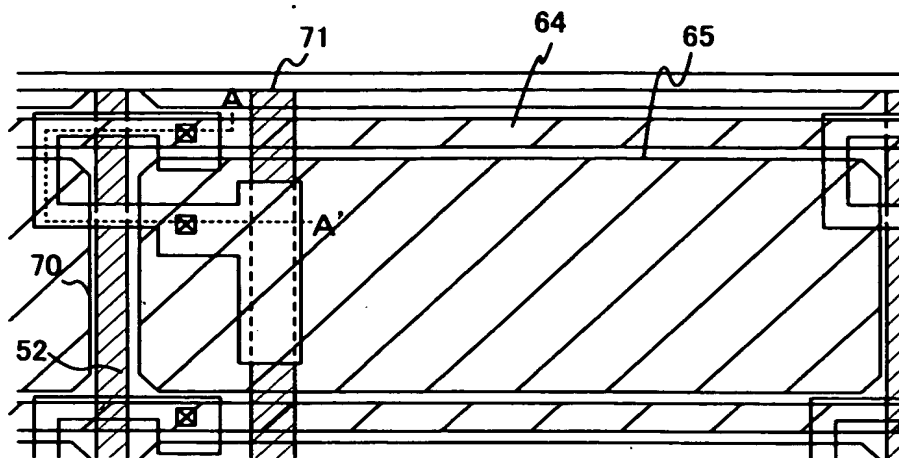


(A)

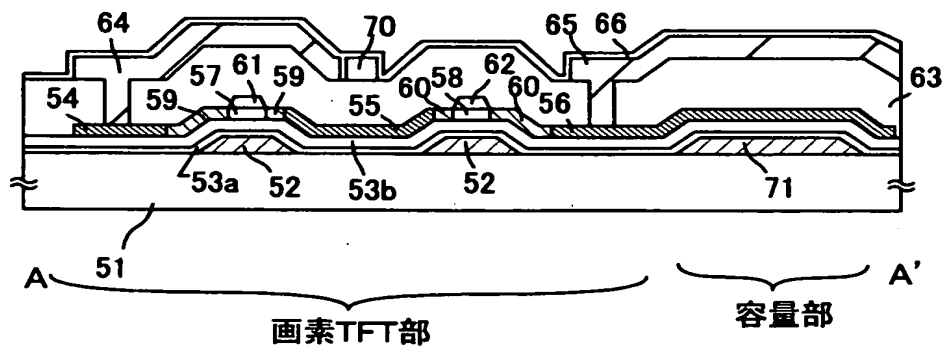


(B)

【図13】

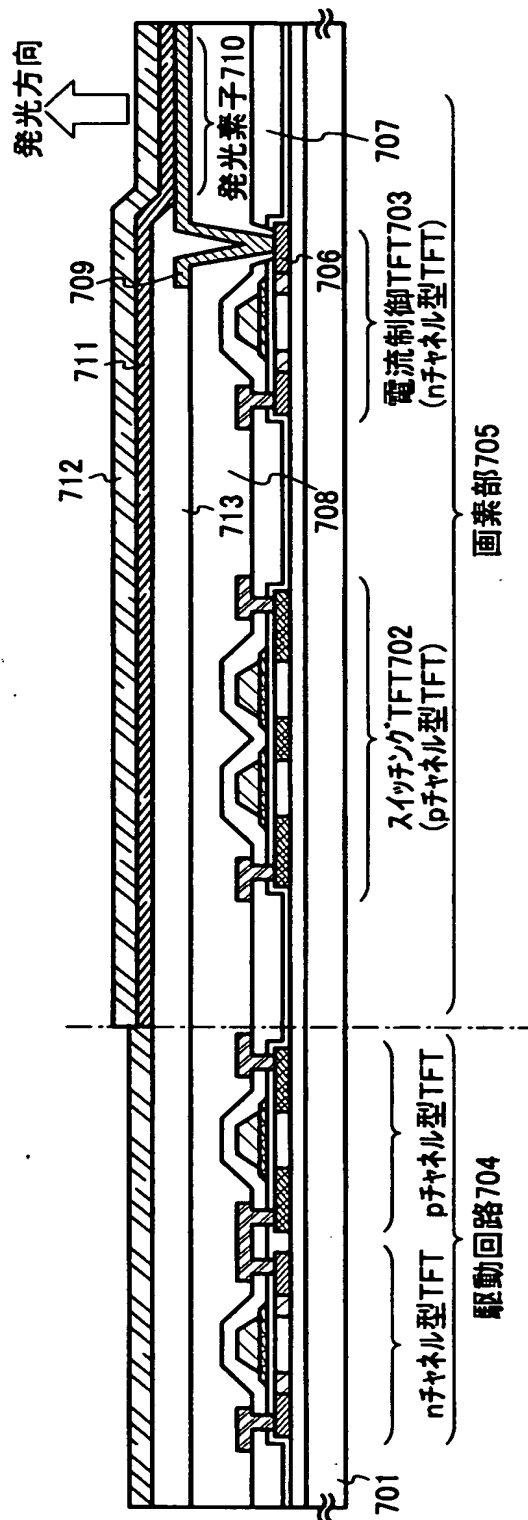


(A) 上面図

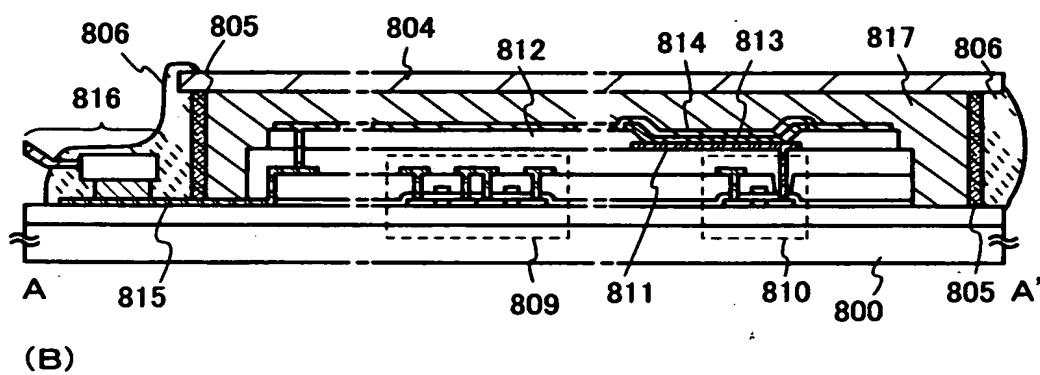
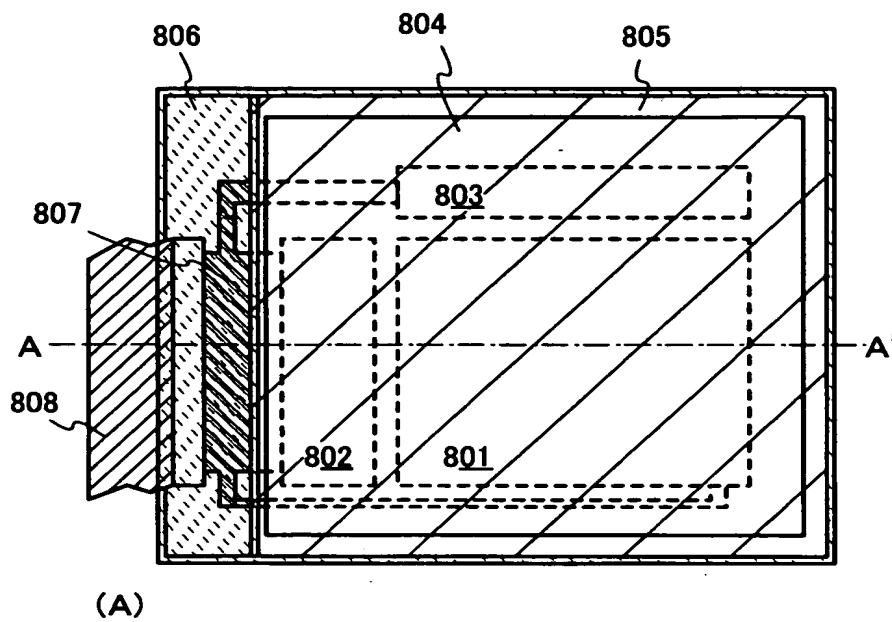


(B) A-A'断面図

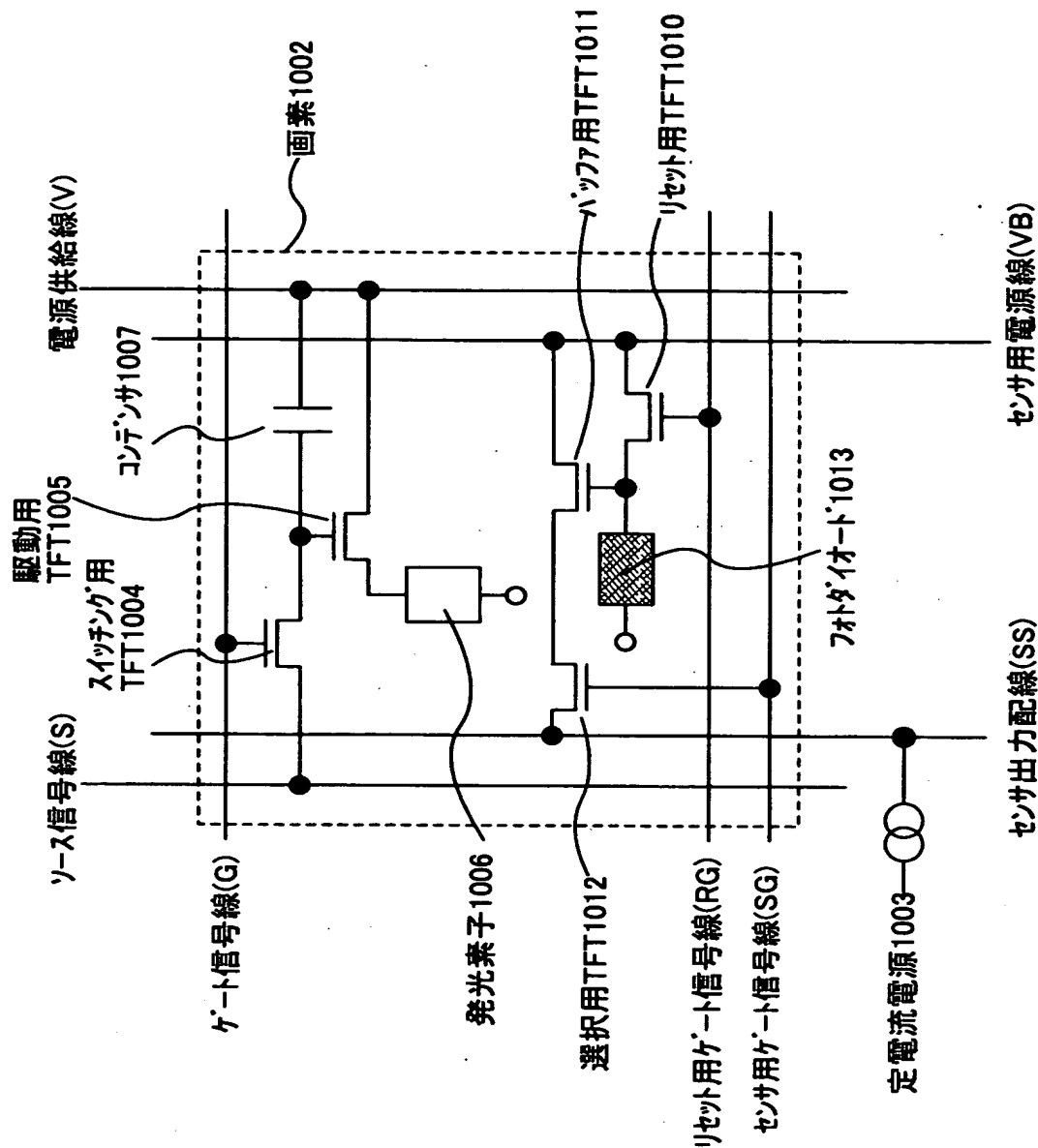
【図 1 4】



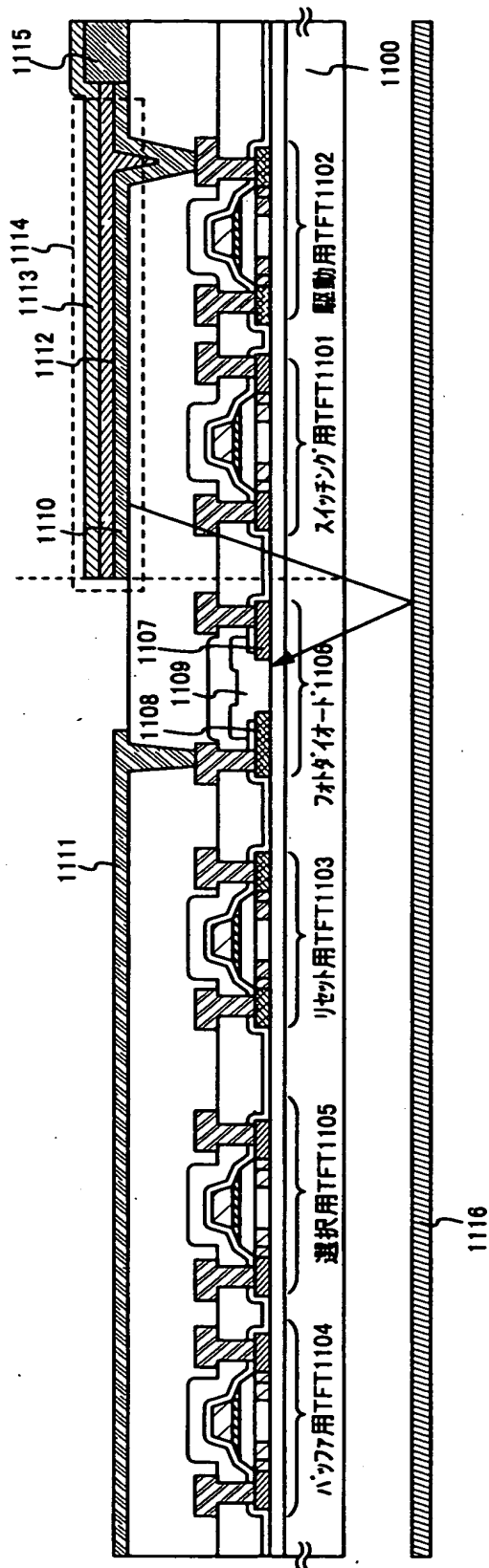
【図 1 5】



【図 16】



【図 17】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 インターネットメールを送受信可能な電子装置には、操作キーの数は数字キーと特殊キーに対応した 1 2 ～ 2 0 個程度が普通であり、漢字を含む日本語文字や特殊文字をデータとして入力するためには、入力モードを切り替えて複雑な操作をする必要があった。

【解決手段】 本発明は、携帯電話装置に代表される携帯情報端末、パーソナルコンピュータや据置型電話装置に代表される情報端末などの電子装置において、電子装置の第一筐体と第二筐体を蝶番によって折り畳んだ状態においてのみ、第一筐体の第一の中心線と第二筐体の第二の中心線が一致し、かつ平行となる形状を有することを特徴とする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000153878]

1. 変更年月日	1990年 8月17日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県厚木市長谷398番地
氏 名	株式会社半導体エネルギー研究所